

平成30年度小松市立月津小学校 学校評価

めざす児童生徒像

自主 自分で考え 行動できる子

自律 自分を律することができる子

※児童生徒数

数値・アンケート結果

	目標	項目	目標指標	達成度アンケート内容・調査	数値・アンケート結果	
					教員	児童生徒
学校重点項目 (学校で設定)	主体的な児童活動		児童会主体の行事の満足度を100%にする。	① 児童集会	87.5	
				② 運動会	100	100
				③		
				④		
				集計		
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		自分の業務で改善し、無駄なところを1割カットする。	① 業務を洗い出し、見直しをする。	91.7	
				② 会議の見直しをする。(職員会議の時短・その他の軽減)	83.3	
				③ 授業・研修の充実	100	
				④ 職員会議に業務改善コーナーを設ける。	58.3	
				集計		

	目標	項目	目標指標	達成度アンケート内容・調査	数値・アンケート結果	
					教員	児童生徒
		学校研究	④について全員が3回以上校外の研修に参加する。	① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている	100	
				② 指導主事や大学教員等の専門家が、校内研修の指導のために定期的に来校している	100	
				③ 教員一人一人が授業研究を伴う校内研修を計画的に実施している	100	
				④ 校外の研修に積極的に参加する。	100	
				集計		

小松市共通重点項目

指導力の向上

授業	算数科において④の項目が、児童・教員ともに100%になる。	①	児童生徒が自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいる	88.9	93.5
		②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	50	96.2
		③	(発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	37.5	90.3
		④	(記述力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	12.5	91.4
		⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	62.5	97.3
		⑥	児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できる	62.5	99.5
		⑦	一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行っている	100	
		⑧	友だちや先生の話をきちんと聞くことができている。	56	93
		⑨	考える力が付いた。	33	94.1
				集計	
学力調査	①～④についてそう感じていると答える教員の割合80%以上	①	学力調査の自校採点の結果を全教職員で共有し、経年的な分析に基づいて、重点目標や具体的な取り組みが設定されている	100	
		②	学力の重点目標や取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている	91	
		③	学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている	91	

学力の定着	・教科	⑤～⑥について平均点が目標に届いているかどうか。	④	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	64		
			⑤	一学期単元末の国語のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は80点を指す。	1年93点2年91点3年76点4年		
			⑥	一学期単元末の算数のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は80点を指す。	1年98点2年79点3年87点4年		
			集計				
	家庭学習	②について教員アンケートを100%にする。(学担)	①	自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	60	87	
			②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	100	97.9	
			集計				

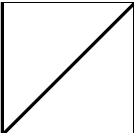
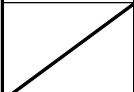
達成結果－教員結果・保護者結果

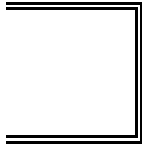
(%)	※差	達成状況の分析	改善策
保護者		①児童集会 企画委員会のみが運営に関わっているのが現状である ②運動会 教師・児童共肯定的な回答 よく頑張れたと回答する児童も96.7%と大変割合が高い	・学校保健委員会や大縄大会等、が動く機会を捉え、毎月の集会をいを伝えるチャンスとして主体的 営できる場や機会を仕掛けていく ・児童主体の集会の回数を重ね、児童に周知し、高学年を中心に下 ゼルとなる

	達成状況の分析	改善策
	①肯定的な割合は高いが、Bの割合が67%で、見直しには課題がある ②会議は前年度より減った ③部会、個人研修は充実させ、授業改善を図った。 ④会の時短、業務改善を意識することには課題がある	①行事の反省を行い、来年度に向 や取組を見直し、記録に残す ②分掌部会と管理職の合議により を大幅に時短する ③引き続き、授業改善を中心に講 研修から学び実践する。

(%)	※差	達成状況の分析	改善策
保護者		④について、肯定的回答は、A58%、Bは42%。 【理由】 学校で日程を調整して全職員で校外の研修に参加する機会があったが、個々で積極的に研修に参加する機会は少なかったことが考えられる。	・教務と連携して、個々が校外 積極的に参加できる日程や補 態勢を組む。 ・外部講師やスーパーバイザ 職等を研究授業だけでなく、日 業設計についての指導を受け 少人数の部会や個人で時間の計 研修を行う。

	4.6	④について、 児童の肯定的な回答 91.4% 教職員の肯定的な回答 12.5%	④について ・特に算数科では、重点単元を に、「工夫して書く」ことは不 確にし児童と共有する。視点 形成的評価を行う ・基本的な図などは系統性を ノート指導を通して習熟させ
	46.2	【理由】 関係図や線分図など図を使って説明す ることが児童は十分と捉えているが、 教師は、求める目標には達成していな いと捉えている。	・分かりやすく書いたり、話し るために、授業では、「考え 由を短く書く・話す」ことを で徹底する
	52.8	若手教員においては、個々の工夫は評 価できても、個々の表現力に差がある ことから、目標設定に課題があると思 えている。	
	78.9		
	34.8		
	37		
	37		
	61.1		
		②③について、 A評価よりB評価の方が高く、9%の 否定的回答がある 【理由】 取組みの徹底に温度差があり、課題が ある	①②③について ロードマップに基づいて定期的 を行いながら、取組みを徹底
		④について、 当初の計画では、一学期に数回小中連 携の学習が設定されていたが、各 校の	④について 南部校下6校で、夏季休業を活 力向上に向けた話し合いが行 とになっている。学力調査の結 果の検討を共有する機会

		携の云が設定されていたか、百風寺の災害などの影響で実施できなかった。 ⑤⑥について、 国語は3年5年にやや課題 算数は2年5年にやや課題	竹の情報を共有する不足。今後めたらよい課題について共通理学期より実施。 ⑤⑥について 各学年の課題を認識し、児童の高めていく上でも2～6年生の標は90点に設定する。
88点5年80点6年89点		【理由】 個々の能力に応じた目標を持たせ、達成できるような習熟に不足があった	
86点5年76点6年81点			
64.9	27	①については、1学期には2度調査をした 児童の割合は一回目から比べると約10%伸びている	・家庭学習強化週間は1学期は2学期も2回、3学期は1回実施調査も実施し、分析を行う。教師の肯定的回答の割合が低い け、2学期は計画的な家庭学習ように方策を校内で話し合い、る
	-2.1	【理由】 学担による計画的な家庭学習に対する方策が、児童の意識の向上につながっている。	



各委員会
全校に思
いに企画運
。あり方を
学年のモ

引けて内容
職員会議
教師や校外

研修に
欠などの
一、管理
日々の授
るために
調整し、

を中心
見点を明
こ対して

理解し、
る

したりす
とその理
学校全体

内に検証
させる。

用して学
われるこ
結果・分
の校で注

及び、
理解し、2

の意識を
よ次の目

よ2回、
実施。意

の事を受
けができる
実施す